



いばらき未来基金

# いばらき未来基金第2回テーマ助成事業

## 報告書



2018年6月

いばらき未来基金運営委員会





# いばらき未来基金

## 第2回テーマ助成 募集要項

助成申請、  
受付中！



<p>いばらき未来基金とは</p>	<p>いばらき未来基金は、茨城の未来をつくり、市民の生活を支え、地域のつながりを育む様々な市民活動と、それらを応援したい市民や企業などをつなぐ、茨城のための市民コミュニティ基金です。企業や NPO、労働組合、農協、生協、メディア、大学などからなる運営委員が連携し、認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・commons に事務局を設置し、2012 年から運営しています。</p> <p>市民が地域課題解決の主体となること、また多様な組織の連携による地域課題の解決を推進し、いばらきの未来づくりにつながる活動を応援することを目的としています。</p>		
<p>目的</p>	<p>以下に掲げる当基金のテーマに沿った活動を応援し、地域課題の解決につなげます。</p>		
<p>財源</p>	<p>各テーマに賛同した市民や団体からのご寄付を原資として助成します。</p>		
<p>助成対象活動</p>	<p>テーマ</p>	<p>内容</p>	<p>活動例</p>
	<p>テーマ1： 共に生きる未来 ～誰もが安心して暮らせる地域づくり～</p>	<p>災害や不況で家や仕事をなくしたり、家族が離れ離れになったり、風評被害に遭いながらも、前を向いて動こうとする人によりそい、応援する活動があります。日本語が話せない、子どもの世話が大変など、事情があって仕事の機会が限られる人のための支援活動があります。ひきこもりや無縁社会といった現象は、誰もが直面するかもしれない問題です。行政の支援が届かない新たな福祉問題に取り組む活動や、孤立しがちな人のコミュニティづくりなど、共に生きる社会を目指</p>	<p>人々の自立やコミュニティをつくる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害で苦労した人と共に生きる活動</li> <li>● 就労しにくい人の仕事や職場づくり</li> <li>● 悩んでいる人や家族を支える活動</li> <li>● ひとり親世帯や単身世帯を応援する活動</li> <li>● 情報・移動・制度・心のバリアを取り除く活動</li> <li>● 社会課題への関心・理解を</li> </ul>

		<p>す活動を支援します。</p>	<p>深める活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題を抱えた方の自助グループづくり</li> <li>● 排除されがちな人のセーフティ・ネットづくり</li> </ul>
<p>テーマ2： 未来世代と持続可能性 ～未来の担い手やライフスタイルづくり～</p>		<p>経済のグローバル化で、学校では外国とつながる子どもが増え、高校進学が課題になっています。格差が広がり、塾に行けない子どもたちも増えています。次世代を担う子どもたちが進学や将来の夢をあきらめなくてすむように、学びを支援することは、未来への投資です。また、自然エネルギーの普及や乗り物を共有する仕組みづくりなど、持続可能な生活環境をつくるための活動も地域の未来をつくることにつながります。地域の未来を明るくする人や技術が育つよう、夢や希望を本物の可能性に変える活動を支援します。</p>	<p>いばらきの未来を創る活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもの貧困や、学習支援に関する活動</li> <li>● 外国とつながる子どもへの支援</li> <li>● 若者の進路を拓くキャリア教育</li> <li>● ESD（参加型の学習とまちづくり）のプログラム</li> <li>● 食の安全や農業を支える活動</li> <li>● 自然エネルギーの普及</li> <li>● 自然や環境を次世代に残す活動</li> <li>● 地域での資源循環や持続可能な暮らしを広げる活動</li> </ul>
<p>テーマ3： 地域資源の再活用 ～知恵と交流で未来をつくる～</p>		<p>社会の変化によって、地域にある大事な場所、風景、建物、人のつながり、文化が失われつつあります。限界集落に若者が入って村を残す活動、古い蔵や民家、廃校や公共施設などを改装して次世代に残す活動、商店街や団地の中に人が集う場や小さな福祉拠点をつくる活動など、地域の資源と課題を組み合わせる新たな価値や公共空間を生み出す活動があります。立場や地域を超えて人が交流したり、知恵を出しあって、未来につながる課題解決に取り組むプロジェクトや、地域円卓会議の開催を支援します。</p>	<p>地域のつながりを育む活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 民家や施設を開いた居場所づくり</li> <li>● 団地の高齢化対策</li> <li>● 地域資源を生かしたタウンミュージアム</li> <li>● 地域を紹介する情報の発信</li> <li>● 地域や世代を超えた交流企画</li> <li>● 都市と農村の暮らしをつなげる活動</li> <li>● 企業と NPO など異業種による協働実験</li> <li>● つなぐ人材の育成に関する活動</li> </ul>

過去の 助成実績	テーマ1	子どもの虐待防止のための講演会開催、「保護犬を介した若者の自立支援プログラム」における組織基盤の強化
	テーマ2	子育て応援ワークショップ・カフェ事業
	テーマ3	インターネット放送による草の根情報発信活動のための視察、子育てに悩む家庭の訪問事業
	詳細は以下のウェブサイトにある第1回テーマ助成報告書（PDF：3.1MB）をご覧ください。 < <a href="http://www.ibaraki-mirai.org/news/data/theme1st-report.pdf">www.ibaraki-mirai.org/news/data/theme1st-report.pdf</a> >	
申請可能な団体	<p>安心できる未来を創るために、地域課題を発掘し、解決しようと茨城県で継続的に活動する非営利の組織。</p> <p>※ 法人格の有無や種類は問いません。</p> <p>※ 政治・宗教を主目的とする組織は対象としません。</p> <p>※ 事務所所在地が茨城県内になくても、活動場所が県内であれば申請可能。</p>	
助成総額	<p><b>90</b>万円</p> <p>※ 申請金額はご自由にお決めください。</p> <p>※ できるだけ自己資金をご用意ください。自助努力や他の助成金などでまかなえない部分を支援しますので、助成額が申請額を下回ることもあります。</p> <p>※ 助成対象活動で行事参加費などを徴収いただいて構いません。活動の持続可能性を考慮すると、行事参加費は重要です。</p>	
対象経費	<p>人件費や間接経費も含め、対象経費に制限はありません。ただし、助成期間終了後の活動の持続可能性に関して、対象経費の配分も含め審査の対象となります。</p> <p>※ 申請する特定の活動に対する助成であり、組織への包括的補助ではありません。</p>	
資金支援以外の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 助成金贈呈式などの機会を活かし、報道機関が取材し、活動が広く地域に発信されるよう一緒にコーディネートを行います。</li> <li>● いばらき未来基金を運営する、認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・commonsによる組織運営支援や相談を受けられます（専門的な相談内容の場合、相談料有料の場合あり）。</li> </ul>	
申請期間	2017年1月4日（水）～2月12日（日） ※ 当日消印有効	
活動実施期間	2017年4月1日（土）～2018年3月18日（日）	
スケジュール	2017年1月4日（水）～2月12日（日）	助成申請受付
	2017年2月下旬～3月中旬	書類審査
	2017年3月下旬	助成金贈呈式実施、助成金振込
	2017年4月1日（土）～2018年3月18日（日）	活動実施
	活動終了後1か月以内もしくは2018年3月31日（土）のいずれか早い日まで	報告書提出

選考方法	<p>テーマ助成選考委員会によって、別紙申請書をもとに書面審査。</p> <p>※ 必要に応じて関連資料を追加で提出していただいたり、ヒアリングや公開プレゼンテーションなどを行います。</p>
選考基準	<p>① 地域課題の解決に明確に結びつくか</p> <p>② 助成によって組織基盤や地域とのつながりが強化されるか</p> <p>③ 活動の実現可能性</p> <p>④ 新たな居場所と出番は増えそうか（多様な世代の参加など）</p> <p>⑤ 他の組織のモデルとなるか</p> <p>⑥ 他からの資金が受けにくい活動か</p> <p>⑦ 資金の使途は適切か</p>
結果通知	書面により、2017年3月下旬頃通知予定
助成金の交付	<p>2017年3月下旬頃に、ご指定の団体口座に一括で振込を行います。</p> <p>※ 個人口座へのお振込みはできませんので、ご了承ください。</p>
活動報告	<p>活動終了後1か月以内もしくは2018年3月31日（土）のいずれか早い日までに、A4で1～2ページ程度の書式に、活動写真とともに簡単な報告をいただきます。何を行ったかではなく、どのような成果が生まれたかを重視します。</p> <p>※ 領収書コピーの送付などは不要です。</p>
申請方法	<p>以下の書類を、申請窓口まで郵送。</p> <p>① 申請書 ※ &lt; <a href="http://www.ibaraki-mirai.org/news/data/2theme.doc">www.ibaraki-mirai.org/news/data/2theme.doc</a> &gt;よりダウンロード</p> <p>② 最新の事業報告書及び決算書類</p> <p>③ 必要に応じ、その他参考となる資料（団体パンフレットや会報、新聞記事など）</p> <p>※ 一般的な助成事業と異なり、審査前の企画コーディネートを事務局が行います。できれば本申請前に申請書案を事務局にお送りください。一緒に良い活動企画を練り上げましょう。</p> <p>※ 申請された活動趣旨は評価されたものの、計画などをさらに検討する必要性が認められた場合、活動計画や予算の再修正をお願いすることがあります。</p>
申請窓口・お問い合わせ	<p>いばらき未来基金事務局（認定NPO法人 茨城NPOセンター・commons） 担当：大野 寛</p> <p>〒310-0022 茨城県水戸市梅香二丁目1番39号 茨城県労働福祉会館2階 ☎：029-300-4321 FAX：029-300-4320 eメール：office@ibaraki-mirai.org ウェブサイト：www.ibaraki-mirai.org</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ご連絡いただいた個人情報は、<a href="#">茨城NPOセンター・commonsの個人情報保護方針</a>に沿って、本事業の運営及び関連するご連絡のみに使用致します。</li> <li>● 助成対象活動で作成する広報物などには、必ず本助成事業からの助成である旨、記載してください。</li> <li>● 申請した活動内容や予算に変更が見込まれる場合、都度ご相談ください。</li> </ul>

助成対象となった活動

テーマ	活動名	活動内容	団体名 (順不同)	代表者 役職名	代表者名	助成 金額
1. 共に生きる未来	子ども認知症介護教室	内容： ○「認知症って何だろう？」をテーマにパワーポイントを使っての説明。 ○徘徊と記憶障害をテーマに作成した「おばあちゃん、どこいくの?」「おじいちゃん、同じこと聞かないで!」の紙芝居。 ○「シナプソロジー」の実演。 (認知機能の活性化を目的とした脳の体操) ○「認知症って何だろう？」のパンフレットを配布 いつ：要望のあった小学校と打ち合わせの上、決定する。 どこで：地域の小学校	NPO 法人 認知症介護 家族の会 さぎ	理事長	諸岡 明美	20万円
	子ども食堂	第1・第3土曜日 11:30~13:00 *夏休み・冬休み・春休みは上記開催以外に特別企画行う 茨城保健生協 組合員ホール にこにこ食堂ボランティア 大学生も登録あり 現在29名 毎回12~13名が担当 昼食を提供する(主菜・副菜(2品以上)汁物・その他) 料金 子ども(中学生まで)100円 同伴親 100円 その他 300円  メニューは、毎月のミーティングで決める。 にこにこ食堂開催日の前日に、JA水戸などからの寄付食材を取りに行く。メニューのチェックを行い不足品の買い物。 当日は、9:30~調理開始。約30人分作る。  ボランティアミーティング 毎月1回開催。毎月の振り返りやメニューまたは特別企画内容の相談 地域向け宣伝	茨城保健生協 にこにこ食堂	店長	大内 孝夫	20万円
2. 未来世代と持続可能性	都市と里を農でつなげるプロジェクト~竹の再利用でも自然もつながる~	いつ：2017年4月1日~2018年3月18日 どこで：茨城県東茨城郡茨城町小幡、周辺地域、都市部 誰が：NPO 環~WA、都市部住民(首都圏及び茨城都民)、地域住民 何を：竹林整備、駆除した竹をパウダー化し堆肥として農園に利用 なぜ：竹林の利活用による里山の魅力再発見と自然とのふれあい体験 方法：①都市部住民へのPR(地域情報誌や新聞等への広報、イベント参加) ②地域住民へのPR(地域情報誌や新聞等への広報、イベント参加) ③竹林整備や農園体験(竹パウダーの利活用) ④都市部住民と地域住民との交流	NPO 環~WA	代表理事	平澤 文子	15万円
	未来をひらく	1 無償学習塾の開催 (1) 目的 将来の地域を担う人材育成 授業の予	若草ふるさとアカデミ	会長	川又 有紀	10万円

いばらき未来基金 第2回テーマ助成事業 報告書

テーマ	活動名	活動内容	団体名 (順不同)	代表者 役職名	代表者名	助成 金額
	ふるさと塾	習・復習を中心にする。 (2) 日時 毎週月曜日 16:00~19:00 (3) 会場 江戸住宅コミュニティセンター (4) 対象 区内の小中学生(近隣区からの参加も可)。  2 野外活動 (1) 目的 自然観察や探検、自然に親しみ感性、協調性、理解力を養う (2) 日時 毎月第3日曜日、夏休み期間中に2回 (3) 場所 近隣の小川や里山、霞ヶ浦等 (4) 対象 区内の小中学生を中心に、一般	—		子	
3. 地域資源の再活用	市民まちづくりトレーニング@水戸	【いつ】6月~11月(3回のトレーニングと月1回程度のミーティング) 12月~3月(各プロジェクトの事後フォローの実施。フューチャーセンターセッションの開催に向けた取組み) 【どこで】水戸市内の公共施設及び参加者それぞれの現場 【どのように】ワークショップやまち歩きなどを通して、参加者各人が自分の「やりたいこと」と「地域の課題」をつないだ活動プランを策定し、それぞれの地域において市民プロジェクトを実践する。	みと市民プロジェクト	代表	萩谷 慎一	15万円
総額						80万円



## いばらき未来基金第2回テーマ助成事業 活動報告書

活動名	こども認知症介護教室
テーマ	① 共に生きる未来 ～誰もが安心して暮らせる地域づくり～ 2. 未来世代と持続可能性 ～未来の担い手やライフスタイルづくり～ 3. 地域資源の再活用 ～知恵と交流で未来をつくる～
団体名	特定非営利活動法人認知症介護家族の会うさぎ
この活動で取り組んだ地域の課題	<p>稲敷市は現在、高齢化率30%を超えています。地域柄、三世代・四世代同居も未だに多いという特徴がありますが、一方で高齢者の単独世帯が年々増加している現状に伴って、認知症で独居の方も増えています。超高齢社会における認知症対策は厚労省も「国の最重要課題」だとしていますが、まず取り組むべき課題は認知症予防も含めた「認知症啓発事業」と思われます。</p> <p>認知症とその介護を正しく理解することは、地域の課題に取り組む一歩となります。認知症の症状である徘徊などの例を挙げるまでもなく、認知症はもはや家族だけの問題ではなく地域社会の問題となっています。徘徊による行方不明や死亡事故などが起こる事のないように一人でも多くの地域住民の見守りや支援が必要です。</p> <p>その為「子ども認知症介護教室」は、地域の次世代を担う小学生を対象に認知症とその介護の理解を広めることを目的とし実施してきました。さらに子ども達を通して、忙しい子育て世代へも働きかけをし、認知症とその介護の理解について世代を広めることも課題の一つとしています。</p>
この活動の目的	認知症介護普及啓発事業の一環として「子ども認知症介護教室」は、地域の次世代を担う小学生及び子育て世代の人々を対象に認知症とその介護の理解を広め、地域の支援者が増えることを目的としている。
実施内容	<p><b>活動</b>：「子ども認知症介護教室」&amp;認知症サポーター養成講座</p> <p>①平成29年11月28日（火） 2・3時間目 あずま西小学校 4年生 23名</p> <p>②平成29年12月5日（火） 新利根小学校 合計 132名 2時間目 2年生 59名 3時間目 5年生 63名</p> <p><b>内容</b>：○低学年には「忘れる」ということについてお話する。 高学年には「認知症って何だろう？」をテーマにパワーポイントを使って説明する。 ○DVD視聴 「小学生の認知症の方への対応の一場面」 ○徘徊と記憶障害をテーマに作成した紙芝居。 ○「シナプソロジー」の実演。（認知機能活性化を目的とした脳の体操） ○「認知症って何だろう？」のパンフレットを配布</p> <p><b>その他</b>：「認知症って何だろう？」のパンフレット販売 今年度より、希望者に1部100円で提供することにした。</p>

	<p>○公益社団法人「家族の会」東京支部通信「ぽーれぽーれ」                  2018年2月25日発行に掲載 ○茨城新聞に掲載                  結果：4件の希望あり。(東京3件、稲敷市1件)</p>
<p>申請書に記載した「評価指標」に対する、実施「結果」</p>	<p>「子ども認知症介護教室」の最後に「認知症って何だろう？」のパンフレットを配布し、家の人と一緒に読み感想文を書くという課題を出しています。後日、あずま西小、新利根小より子ども達とご父兄の感想文が届きました。                  その感想文からは、「認知症の人は怖い思いをしていると感じた」「可哀想だと思った」など感じたこと、「認知症が分かった」など小学生なりに理解したことが綴られていた。また、「認知症の人に優しくしようと思った」など、自分がこれからどうしたいかという意見も多く見られました。                  父兄の感想文では、「親子で認知症のことを話し合える良い機会となった」「子どものうちから知ることは大事」などの感想が寄せられ、この取り組みにより子育て世代にも認知症に対する関心をもってもらうという結果が得られたのではと評価しています。</p>
<p>申請書に記載した「目的」に対して、生まれた「中長期成果」</p>	<p>中長期的な成果は現時点では明らかになっていませんが、稲敷市の江戸崎中学校でも毎年「認知症サポーター養成講座」を行っておりますので、中学生になった子どもたちに復習を兼ねた確認が出来るのではと考えています。                  又、江戸崎総合高校の福祉学科の高校生を対象とした「認知症サポーター養成講座」も行っていますので、少人数ではありますが確認できるのではと思います。この活動を始めて4年目になりますが、子どもたちの成長とともに中長期成果が何らかの形で表れることを期待しています。また、ご父兄の方たちにも、認知症は自分たちの親や祖父母にも起こり得ること、さらに若いうちから生活習慣病や認知症にならないように予防することが大切であることを理解してもらいたいと思います。その成果の確認も必要と考えています。</p>
<p>申請書に記載したように、市民の新たな「居場所」や「出番」をつくることにつながりましたか？</p>	<p>「子ども認知症介護教室」は小学校に出向いて行っていますので、新たに「居場所」「出番」をつくることにつながったかは分かりません。ただ、子どもたちの地域や学校生活の中で、お年寄りと接する時に「子ども認知症介護教室」で学んだことを少しでも思い出し、優しい適切な接し方をし見守る目になってもらいたいと思います。また、中学校や高校で行う「認知症サポーター養成講座」が成長過程に沿ったフォローアップ研修につながっているので今後も継続していく考えです。</p>
<p>活動実施後の展望や新たに増えてきた地域課題</p>	<p>少子化に伴い、稲敷市でも小学校の統廃合が進んでいます。それに対応した各地区毎の将来像に合った計画を立てていく必要性を感じています。</p>
<p>市民や団体からのご寄付を原資として助成しました。寄付者へ一言お書きください</p>	<p>ご寄付を無駄にしないよう、今後も継続的に実施していきたいと思います。有難うございました。</p>
<p>自己評価</p>	<p>A. 目標を超える成果を得ることができた                  (B) ほぼ目標どおりの結果となった                  C. 残念ながら目標を達成できなかった</p>



### 稲敷・新利根小

「子ども認知症介護教室」として行われた講座では、認知症サポーター養成講座講師(キャラバン・メイト)で同市内を拠点に活動するNPO法人「認知症介護家族の会うさぎ」理事長の諸岡明美さん(66)らが講義を進行した。

# 認知症対応学ば

地域で認知症の人やその家族を支援する「認知症サポーター」の養成講座が、稲敷市柴崎の同市新利根小(根本賢二校長)で開かれ、2年生と5年生の計122人の児童が認知症の症状や認知症の人への接し方などについて学んだ。

## サポート講座 NPO、紙芝居で解説

投影された紙芝居を鑑賞し、認知症について理解を深める児童ら。稲敷市柴崎

出来事も忘れてしまう」と述べた後、認知症の祖父母とその孫が登場する同NPO法人オリジナルの紙芝居や絵本などで、認知症の人への対応の仕方などを解説。脳に刺激を与え活性化を図る運動なども交え、児童の理解を促した。児童からは「認知症になる原因はこの質問も上がった。諸岡さんは「大きな原因は脳を使わないこと。老化現象で脳が縮んでくると、食事や運動不足などいろいろな原因がある」と答えた上で、「認知症の人は怒られるのが苦手。優しく声を掛けてあげてほしい」と呼び掛けた。

(勝村真悟)

### 認知症って何？ 子ども向け冊子

稲敷のNPO制作

認知症介護の普及・啓発に取り組む稲敷市のNPO法人認知症介護家族の会うさぎ(諸岡明美理事長)は、小学生向けのオリジナル小冊子「認知症ってなんだろう？」(B5判、13頁)を1部100円で提供する。小冊子は、認知症の原因や症状、認知症になった人の気持ち、認知症の人との接し方などについて、イラストを使い、分かりやすく書かれている。大文字で表



小学生向けのオリジナル小冊子「認知症ってなんだろう？」記され、全ての漢字に振り仮名付き。

同NPO法人が4年前から同市内の小中学校などで開いている「子ども認知症介護教室」で配布しているもので、子育て世代にも認知症介護の理解を深めてもらうべく制作した。希望者は同NPO法人 ☎0299(7)9173、ファクス ☎0299(7)9174 に申し込む。1回の申し込みで50部まで。送料は同NPO法人が負担する。

### 小学生向けパンフレット

#### 「認知症ってなんだろう？」

認知症介護普及啓発事業の一環として、「子ども認知症介護教室」を茨城県稲敷市において4年前から行ってきました。地域の次世代を担う子どもたちを対象に認知症と介護の理解を広めることを目的としています。

「子ども認知症介護教室」では、小学生向けのオリジナルパンフレットを作成し、配布してきました。パンフレットは教室の最後に配布し、自宅で家の人と一緒にパンフレットを読んでもらうようお願いしてきました。これは、子どもを通してご父兄にも認知症や介護を理解していただき、考える良い機会となるのではないかと考えたからです。後で感想を伺うと、「親子で認知症についての話し合いの場になった」「家のおばあちゃん(軽い認知症)のことを話すことができた」等の言葉が聞かれています。子どもたちだけでなく、子育て世代にも広げることが出来ていると感じています。

今回、このパンフレットをご希望の方にお届けしたいと思っています。子どもたちに認知症のお話しをする機会がある時など、使っていただければと思います。

- 1部100円(印刷代)
- 1回のお申込みは、50部までとさせていただきます。
- 送料は当方が負担します。
- 下記まで、お電話・FAXまたはお葉書にてお申込み下さい。

〒300-0617 茨城県稲敷市福田1597番地  
NPO法人認知症介護家族の会うさぎ  
担当 諸岡明美(東京都支部会員)  
Tel 0299-77-9173 Fax 0299-77-9174

公益社団法人 認知症の人と家族の会 (2018年2月)「ぽ〜れぽ〜れ」通巻451号付録

いばらき未来基金 第2回テーマ助成事業 報告書

いばらき未来基金第2回テーマ助成事業 決算書

団体名:特定非営利活動法人認知症介護家族の会うさぎ

事業名:「こども認知症介護教室」

区分	科目	内容	単価	×	人数・回数	=	金額	計	うち助成金 充当額	うち自己資 金充当額	予算(うち助 成金充当 額)	予算対比	
収益	受取助成金等	テーマ助成	¥200,000	×	1 式	=	¥200,000	¥200,000					
	自主財源	自己資金	¥30,000	×	1 式	=	¥30,000	¥30,000					
	経常収益計							¥230,000	¥230,000				
費用	給料手当	担当者	¥20,000	×	2 名	=	¥40,000	¥40,000	¥10,000	¥30,000	¥0	¥10,000	
	印刷製本費	冊子「認知症って なんだろう？」 1,000冊	¥113,400	×	1 冊	=	¥113,400	¥113,400	¥113,400	¥0	¥180,000	¥-66,600	
	旅費交通費	ガソリン代 2枝4 回訪問	¥50	×	8 回	=	¥400	¥400	¥400	¥0	¥0	¥400	
	通信運搬費	切手代、送料	¥0	×	1 式	=	¥0	¥0	¥0	¥0	¥10,000	¥-10,000	
	消耗品費		シナプソ材料代他	¥23,468	×	1 式	=	¥23,468	¥76,200	¥23,468	¥0	¥5,000	¥18,468
			シルバー新聞1年分	¥7,700	×	1 式	=	¥7,700		¥7,700	¥0	¥0	¥7,700
			日経ヘルスケア1年分	¥23,000	×	1 式	=	¥23,000		¥23,000	¥0	¥0	¥23,000
			月間「医療と健康」1年分	¥11,664	×	1 式	=	¥11,664		¥11,664	¥0	¥0	¥11,664
シナプソ資料代			¥10,368	×	1 冊	=	¥10,368	¥10,368		¥0	¥5,000	¥5,368	
経常費用計							¥230,000	¥230,000	¥200,000	¥30,000	¥200,000	¥0	
当期経常増減額								¥0	¥0				

## いばらき未来基金第2回テーマ助成事業 活動報告書

活動名	子ども食堂
テーマ (いずれかを選択)	1. ○ 共に生きる未来           ～誰もが安心して暮らせる地域づくり～ 2.       未来世代と持続可能性   ～未来の担い手やライフスタイルづくり～ 3.       地域資源の再活用           ～知恵と交流で未来をつくる～
団体名	にこにこ食堂
この活動で取り組んだ地域の課題	① 子どもの居場所づくり ② 子育て支援と生活困難者への援助 ③ 多世代交流
この活動の目的	①日本の子どもの6人に1人が貧困であると言われ、成長期に必要な栄養をとれるように援助する ②この取り組みを通して「貧困問題」を地域に見えるようにする ③情報発信(マス・メディア ホームページ など)を行い、ボランティアや寄付など支援者を増やす。
実施内容	① 子ども食堂(クリスマス会含む)36回実施 7月・8月の期間は遊び企画など取り入れ、13回開催。 ② 地域の交流と宣伝の目的のため、子どもまつりを開催 ③ 広報活動 ①ニュース作成し支援者や学校に届けた ②ホームページにUP ③茨城放送に出演し宣伝活動
申請書に記載した「評価指標」に対する、実施「結果」	① 中学生以下の子ども料金の無料化 5月から実施。 ② 子どもの利用者は申請時比微増。地域の高齢者や病院利用者など大人の利用者が増加傾向。 ③ ボランティアの増加 3月末登録者 48名(1年間で約20名増加) (うち近隣町内地域在住者 4名⇒11名) ④ 「子どもの貧困」を知らせる情報発信活動を行った 新聞(毎日新聞・読売新聞)や医療福祉生協連の月刊誌に掲載 中央労福協 演題報告 ④ 支援者の広がり 新たに、常陸太田市在住者(野菜)・那珂湊女性部(魚)・スーパータイヨーなど食材料支援者が増えた 定期的な資金援助者が増えた
申請書に記載した「目的」に対して、生まれた「中長期成果」	①「子どもの貧困」に対する関心が高まり、ボランティアや支援者が増えた
申請書に記載した	①マスコミで取り上げられていることもあり、市民の関心は以前より高まって

<p>ように、市民の新たな「居場所」や「出番」をつくることにつながりましたか？</p>	<p>いると感じます。核家族で育った子供たちが地域の高齢者やボランティアと一緒に話をしながら食事をする経験そのものがとても大事なことです。 また幼児と一緒に参加する若い母親たちにとっても(家事・子育てに忙しい)「ほっとする・息抜き」の場所になっているようです。 ②居場所や出番づくりは、子ども食堂の利用者だけでなく、ボランティア登録数の増加傾向から、ボランティア自身の「居場所」になっていると言えます。</p>
<p>活動実施後の展望や新たに増えてきた地域課題</p>	<p>①「にこにこ食堂」が「子どもの貧困対策」にはなっていません。 今年7月で「にこにこ食堂」は3年目になります。まだまだ、本当に必要な家庭にこの情報が届いていない?と悩む日々です。 子どもの移動範囲は、歩いて行ける距離であることを考えると「子ども食堂」が地域にもっと存在すると利用しやすくなるのではないかと考えます。 また、「子ども貧困」は「食べる」ことだけが貧困ではなく、生活全般であることから「遊びや学習」などのかわりも大事です。  課題 あそびや学習支援ができる場所とそのボランティアの確保 行政の支援援助(広報・資金援助・・・)と協議</p>
<p>市民や団体からのご寄付を原資として助成しました。寄付者へ一言お書きください</p>	<p>ご支援ありがとうございました。 にこにこ食堂が安定した運営ができるために多くの支援者が必要なことから広報活動に力を入れてきました。 そのため助成金でパソコンとプリンターを購入しました。 ニュース「にこにこだより」を作成しにこにこ食堂の取り組みを知らせ支援者を増やすことができたと思っています。 ありがとうございました</p>
<p>自己評価</p>	<p>A. 目標を超える成果を得ることができた B. <input type="radio"/> ほぼ目標どおりの結果となった C. 残念ながら目標を達成できなかった D. その他 ( )</p>

おひな様メニュー (3月)



アンパンマンメニュー (11月)



子ども食堂

# にこにこだより

2017年10月21日発行

NO17

茨城保健生協

にこにこ食堂事務局

## 第2回子どもまつり(10/15)開催 参加者110名



**あったかい! とん汁 最高!!**



**今年もJA水戸さん、  
ご協力ありがとうございました。**

**ボランティア 32名・JA水戸 2名・職員 7名**

当日は、朝から小雨。それでもオープン前から待っている人たち・・・大内店長の挨拶でお祭り開始。とん汁とおにぎり(新米)の材料はJA水戸さんからの寄付。紙芝居・水ヨーヨー・焼そば・綿あめなどを楽しみ。雨にも負けずフラフープ大会! ちょっと寒かったけど楽しかったよ。



### 子どもまつり



子ども食堂

# にこにこだよ!

2018年2月22日発行

NO19

茨城保健生協

にこにこ食堂事務局

## 2月3日は節分

のり巻き・いなり寿司を

作りました



新しいボランティアの方々。慣れた手さばき。

2月はボランティア登録者が5名。

現在、ボランティア登録者は47名。

### ちょっと遅れたけど

### バレンタイン!!

支援者から届いたお菓子をプレゼント。



また、漁業組合女性部からカレイが届き「揚げ煮」に。トレイの真ん中のお碗は甘酒。

カレイの目はどっち側? 右側です。

こっみとフェスティバルで宣伝

(2/17 水戸内原イオン)



生協の機関誌コムコム4月号に

にこにこ食堂の取り組み紹介

### 3月の予定

定例 3日・17日

春休み特別企画 31日

3月は3回開きます

いばらき未来基金 第2回テーマ助成事業 報告書

いばらき未来基金第2回テーマ助成事業 決算書

団体名: 茨城保健生協

事業名: にこにこ食堂

区分	科目	内容	単価	×	人数・回数	=	金額	計	うち助成金 充当額	うち自己資 金充当額	予算(うち助 成金充当 額)	予算対比
収益	受取助成金等	テーマ助成	¥200,000	×	1 式	=	¥200,000	¥200,000				
	自主 財源	事業収益	参加費 子ども食堂 (クリスマス会含む)		×	36回 677人	=	¥95,500	¥511,218			
			惣菜売り上げ他		×	29 回	=	¥281,140				
		受取寄附金	寄付金		×		=	¥134,578				
	経常収益計						¥711,218	¥711,218				
費用	消耗品費	子ども食堂の 食材料費		×	35 回	=	¥172,934	¥172,934	¥0	¥172,934	¥0	¥0
		子どもフツ のテント・その 他		×	1 式	=	¥71,165	¥71,165	¥47,251	¥23,914	¥50,000	¥-2,749
		クリスマス会の食 材・プレゼント費		×	1 回	=	¥27,950	¥27,950	¥0	¥27,950	¥0	¥0
		雑費		×	1 式	=	¥40,652	¥40,652	¥0	¥40,652	¥0	¥0
		パソコン・プリ ンター		×	1 式	=	¥152,749	¥152,749	¥152,749	¥0	¥150,000	¥2,749
	イベント費	料理講習会の 講師料・材料 費		×	1 回	=	¥10,380	¥10,380	¥0	¥10,380	¥0	¥0
	経常費用計						¥475,830	¥475,830	¥200,000	¥275,830	¥200,000	¥0
当期経常 増減額							¥235,388	¥235,388				

★ 収益の子ども食堂参加費は、無料券の使用分や保護者(100円)と一般大人(300円)と一律でないため参加総数で収益を計上しました

## いばらき未来基金第2回テーマ助成事業 活動報告書

活動名	都市と里を農でつなげるプロジェクト～竹の再利活用で人も自然もつながる～
テーマ	1. 共に生きる未来 ～誰もが安心して暮らせる地域づくり～ ② 未来世代と持続可能性 ～未来の担い手やライフスタイルづくり～ 3. 地域資源の再活用 ～知恵と交流で未来をつくる～
団体名	NPO環～WA
この活動で取り組んだ地域の課題	里山整備がなされていない為、里山に竹が侵食されている。かつて、竹は食用や建材、農業資材等で利用されていたが、現在は代用品があり、竹林を放置してしまった。地域住民は、里山に放置されたものの可能性や魅力に気が付いていない。また、都市部住民の茨城都民は自然に触れ合う機会が少なく、里山の現状や有用性を知らない。
この活動の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>竹の再利活用構築及び普及啓発。具体的には、竹をパウダー状にし、肥料分析の実施、竹パウダーを施肥した農作物を作り、食味を参加者と一緒に味わう等、竹パウダーの価値アップに役立つ可能性を探る。</li> <li>都市部住民に、非日常体験である里山整備に参加して貰い、里山の魅力や竹パウダーの存在を知ってもらう。また NPO 環～WA を知ってもらうため、県南や首都圏で開催される、自然・環境イベントなどにも出展し、認知PRを積極的に行う。</li> <li>地域住民にも竹パウダーの有効性を知ってもらい、各自の田畑にて利用してもらうよう PR する。結果として地域住民が里山の魅力・誇りを取り戻す。</li> <li>都市部住民と地域住民の交流。</li> </ul>
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>竹林整備および竹破碎</li> <li>竹パウダー成分分析および放射性物質含有検査</li> <li>竹パウダーの効果検証実証実験栽培</li> <li>竹チップによる散策道整備</li> <li>竹チップによるカブトムシ床づくり</li> <li>収穫体験及び食味アンケート（都市住民×地域住民交流）</li> <li>東京都内保育園での木育ワークショップ開催。竹パウダーや落ち葉堆肥、もみ殻燻炭といった里山肥料の学習会とミニ寄せ植え。</li> <li>明治神宮で開催されたアースデー会場での里山肥料展示と活動紹介</li> </ul>
申請書に記載した「評価指標」に対する、実施「結果」	<p>①竹林を 0.1ha 駆除。竹パウダーを 3m<sup>3</sup>作る→間引き駆除：0.1ha、竹パウダー-3m<sup>3</sup> 竹チップ 10m<sup>3</sup></p> <p>②新規参加者を 10人増加(うち、若手スタッフ2名)→新規参加者50人、若手スタッフ3人増</p> <p>③野菜栽培では、竹パウダーを使用/不使用の物を作り、収量と味覚を3種類の野菜で比較。→9種の野菜で比較。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>果菜類（トマト・ピーマン、ナス）：完熟牛糞と比較。収穫量は牛糞施肥が優位だったが、味覚は竹パウダー施肥の方がエグミなく良味。</li> <li>根菜（生姜、里芋）：落葉堆肥と比較。発酵中のパウダーを施肥したことによる障害が発生。</li> <li>根菜（人参）：翌年4月まで長期収穫ができた。良味。</li> </ul>

<p>申請書に記載した「目的」に対して、生まれた「中長期成果」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉菜類（ほうれん草、小松菜）：害虫が少なく、生育安定、エグミのない良味。</li> </ul> <p>■竹パウダーの有効性</p> <p>①成分分析結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳酸菌の量：70日前&gt;2年前&gt;つくりたて</li> <li>・肥料分含有量：窒素、リン酸、カリ、いずれもほとんど含有せず</li> <li>・放射性物質：含有なし</li> </ul> <p>②収量： 動物性肥料&gt;落ち葉堆肥&gt;竹パウダー=無施肥</p> <p>③食味（個人比）： 竹パウダー=落ち葉堆肥&gt;無施肥&gt;動物性堆肥</p> <p>→竹パウダーの効果的利用には施肥のタイミングに工夫が必要なこと、作物との相性があること、生育促進として効果はなく、土壌バランス（微生物や菌類）を整える作用があることが分かった。</p> <p>■普及啓発</p> <p>①関東以南の全国各地で深刻化している放置竹林の問題。本取組を講演会や SNS で発信したことから、竹パウダーや竹チップ利用に関する問い合わせが入るようになってきた。竹は伐りやすいことから、竹林は親子での里山整備体験の場として有効であり、都市住民など未経験者にも本格的な保全をしつつ、恵みをいただく自然共生を体験していただいた。</p> <p>■副産物</p> <p>周辺の竹林と比較すると竹の子の収穫時期が遅かったフィールドだが、竹林整備が進んだことで、暗かった林床に光が射し、笹の葉が布団の役割となり、2018年春は周辺と違わぬ時期に収穫が開始でき、収穫量も格段に増えた。</p>
<p>申請書に記載したように、市民の新たな「居場所」や「出番」をつくることにつながりましたか？</p>	<p>通年、経年の取り組みは、「アクションによる経緯と成果」がみえるため、単発的なイベントでは実感できない学びと喜び、感動がみえた。お金で得るサービスやモノでなく、「自らのアクションで守る・育てる・いただく」循環の中に、市民自身がつくる「居場所や出番」が芽生えるようだ。収穫が期待できる「農」の取り組みはやりがいを見出しやすく、且つ、小さなお子さまも楽しめる作業があり、若い世代が家族で参加でき、子育て中のママたちに好評だった。</p>
<p>活動実施後の展望や新たに見えてきた地域課題</p>	<p>乳酸菌を豊富に含む竹パウダーと相性の良い作物を探していきたい。含水率の高い竹はパウダー破碎できる季節は晩秋～冬、かつ量産が難しいため、必要量を竹パウダー肥料にし、それ以外はチップ破碎して散策路に撒き、防草と景観整備に役立てる手法が駆除竹処理にも効果的であることが分かった。50代以下の市民を、如何にして地域自然資源とつなげるかが最大の課題。イベントで楽しむ人々が多いが、保全作業をして恵みを得る力量を備える人が少ない。地域資源を守り育て、賢明に利用する人がいなければ地域は荒廃するばかり。地域に根差す人材を育成する指導者と場を増やす必要がある。</p>
<p>市民や団体からのご寄付を原資として助成しました。寄付者へ一言お書きください</p>	<p>NPO環～WAは、いのちを支える地域自然とその地に暮らす人々のつながりを再生することが持続可能な社会づくりに最も必要であると考え、人材育成に取り組んでいます。今回、いばらき未来基金の助成を受け、厄介者の竹林を農業で利用する可能性を模索し、成分分析まで行うことができました。地域や都市部の市民と行うこうした実験的試行を今後も継続して参ります。本事業へのご支援、誠にありがとうございました。</p>

自己評価

- Ⓐ 目標を超える成果を得ることができた
- B. ほぼ目標どおりの結果となった
- C. 残念ながら目標を達成できなかった
- D. その他 ( )



いばらき未来基金 第2回テーマ助成事業 報告書

いばらき未来基金第2回テーマ助成事業 決算書

団体名:NPO環～WA

事業名:都市と里を農でつなげるプロジェクト～竹の再利用で人も自然もつながる～

区分	科目	内容	単価	×	人数・回数	=	金額	計	うち助成金 充当額	うち自己資 金充当額	予算(うち助 成金充当 額)	予算対比
収益	受取助成金等	テーマ助成	¥150,000	×	1 式	=	¥150,000	¥150,000				
	自主 財源	事業収益	参加費	¥1,000	×	30 人	=	¥30,000	¥30,000			
	経常収益計							¥180,000	¥180,000			
費用	消耗品費	農業用資材	¥35,640	×	1 式	=	¥35,640	¥35,640	¥35,640	¥0	¥35,640	¥0
	調査費	放射性物質 肥料成分分析	¥71,400	×	1 式	=	¥71,400	¥71,400	¥71,400	¥0	¥71,400	¥0
		乳酸菌分析費	¥12,960	×	1 式	=	¥12,960	¥12,960	¥12,960	¥0	¥12,960	¥0
	畑管理費	試験圃場管理	¥60,000	×	1 人	=	¥60,000	¥60,000	¥30,000	¥30,000	¥30,000	¥0
経常費用計							¥180,000	¥180,000	¥150,000	¥30,000	¥150,000	¥0
当期経常 増減額							¥0	¥0				

## いばらき未来基金第2回テーマ助成事業 活動報告書

活動名	未来をひらくふるさと塾
テーマ (いずれかを選択)	1. 共に生きる未来 ~誰もが安心して暮らせる地域づくり~ 2. 未来世代と持続可能性 ~未来の担い手やライフスタイルづくり~ 3. 地域資源の再活用 ~知恵と交流で未来をつくる~
団体名	若草ふるさとアカデミー
この活動で取り組んだ地域の課題(※)	1 当区は、超高齢化団地で1975年当初300の戸数は現在250戸となった。最近3~5戸/年で減少している。この高齢化および人口減少を阻止し、若い世代を増やす活動が必要である。 小中学生は、わずかに30名である。その家庭環境は共働きや母子家庭が多く、子どもたちが置き去りにされた感がある。子どもたちに好ましい環境を整え若者を迎え入れる環境をつくる必要がある。
この活動の目的(※)	1 学習・野外活動で、子どもたちの成長を助ける。 2 子どもたちを支援することで、若い世代の社会参加を促し、地域の活動全体を活性化させる。
実施内容	1 学習塾開催 毎週月曜日16:00~19:00の間に小中学生を対象に専門の講師による学習塾を開催した。 2 毎月第3日曜日午前中に自然体験教室を開催した。 3 夏休期間中に水辺探検会を開き、魚類や水質の調査をした。 4 1月21日に「冬の魚をしらべる」観察会を実施した。 5 その他地域の有志と教育や福祉に関する意見交換会を開いた。 6 他地区からの見学が2回あった。
申請書に記載した「評価指標」に対する、実施「結果」	1 「保護者に子どもの成長について「安心感・信頼感」を与えること」については、保護者の価値観により期待が異なるので、全てとは云えないが略満足できる結果であった。 2 子どもの成長：自主的に行動するようになった。協調性も身についてきた。学力については、中学生では、顕著であった。 3 近隣地区からの見学、問合せがあったが事業への協力申し出はなかった。
申請書に記載した「目的」に対して、生まれた「中長期成果」	1 自立・社会参加への第一歩は、自主性が育ってきたことで達成できた。 2 保護者の自治会への参加：子ども会運営にプラスの変化がみられ、地域活動への取り組みにも変化がみられるようになった。 3 若い世代の入居がみられるようになってきているが、この活動の成果ではない。これらの世帯へ積極的はたらきかけを続けて行く。

<p>申請書に記載したように、市民の新たな「居場所」や「出番」をつくることにつながりましたか？</p>	<p>1 居場所：子どもたちが、この日を楽しみに参加している。そのことが自主性や協調性が高まった理由と考えている。当初の学習塾的活動から子どもたちの精神的拠所的存在になりつつある。 2 出番：野外活動での体験を通して文化祭等市主催の行事へ参加するケースが見られる。また、小学生高学年生から学区の行事への協力申し出があり実施した（雪の中での水生動物の採集と展示）。</p>
<p>活動実施後の展望や新たに増えてきた地域課題</p>	<p>1 活動を広げる目的で、教育、福祉や環境問題を中心に地域懇談会を始めた。人材育成という観点から市と話し合いながら地域社会の問題に広げていこう必要がある。 2 活動の充実と協力者の充実。</p>
<p>市民や団体からのご寄付を原資として助成しました。寄付者へ一言お書きください</p>	<p>わたしたちの活動にご支援くださった皆様、子どもたちがすくすくと育っています。将来、わたしたちの地域を担い新しい地域社会の発展の力になってくれるよう、ともに頑張ります。ありがとうございました。</p>
<p>自己評価 (いずれかに○を記入)</p>	<p>A. 目標を超える成果を得ることができた B. ほぼ目標どおりの結果となった C. 残念ながら目標を達成できなかった D. その他 ( )</p>
<p>自己評価でCを記入された場合、その理由</p>	

※ 欄の大きさは自由に変えていただいて結構ですが、全体で2ページ以内となるようご配慮ください。

※ 活動の様子がわかる写真数枚のデータを別途ご送付ください。

※ その他必要に応じて補足書類をご提出ください。

野外活動の様子



夏季の野外活動（出発前の集合風景）



冬季の野外活動 農業排水路の生き物観察

## 平成29年度若草ふるさとアカデミー野外活動報告

若草ふるさとアカデミー会長 川又 有紀子

### 1 目的

茨城県小美玉市羽刈地区遠州池から部室地区池花池に至る区間の農業排水路を調査し生動物の現状を把握する。

### 2 調査の範囲

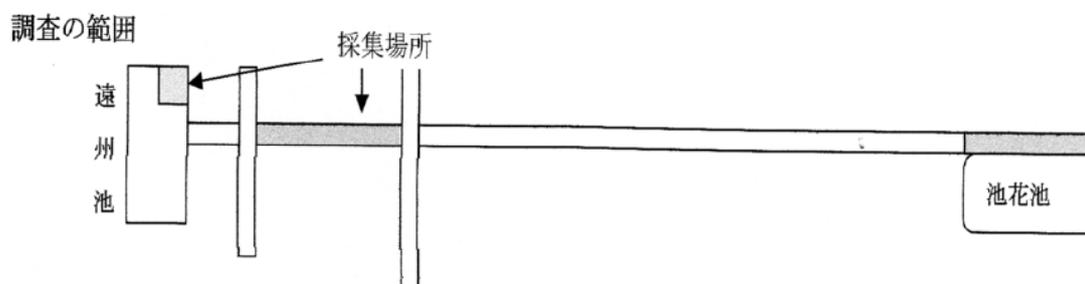
茨城県小美玉市羽刈地区遠州池から部室地区池花池に至る区間の農業排水路。また、農業排水路上流に位置する遠州池からの生物の流下を考慮し遠州池の調査を実施した。

### 3 調査実施年月日

平成29年8月7日平成30年1月28日

### 4 調査方法

調査区間の農業排水路は川幅2mで三面コンクリートである。水深は0.2～0.3mであった。魚類等は僅かに繁茂する水生植物（付着性緑藻類）等の物かげに潜んでいる。枯草を束ねた魚巢（長さ0.6m、直径0.3m）10個を2週間前に水路内に設置し、魚巢内に潜り込んだ水生動物をさで網を用いて採集した。また、さで網で川底や水路側面上で採集した。調査対象衰期を下図に示した。



### 5 広報活動

#### (1) 夏季（平成29年8月7日）

夏季の調査は、夏休期間を利用し地区内の小学生および父兄参加で実施した。野外活動の後、室内で種を確認し、採集した種の生態や環境について学習し討論を実施した。

参加者は小学生19名、父兄10名。

#### (2) 冬季（平成30年1月28日）

冬季の調査は、地区内の小学生12名および父兄10名、その他一般30名で実施した。採集種を確認した後、当日、調査地点近傍で開催されていた冬祭り参加者（約200人）を対象に広報活動を行った。

### 6 結果

#### (1) 農業排水路

魚類

農業排水路で確認できたのは、魚類4種、甲殻類3種、貝類3種であった。

個体数が最も多かったのはドジョウで、これに続いてタイリクバラタナゴが多かった。タイリクバラタナゴは、いずれも2~3cm大の小型の個体であった。モツゴは夏季5、冬季3尾だった。

メダカ5尾が確認された。採集用に設置した魚巣だけでなく河床上の付着藻類に潜入した個体も確認された。

#### 甲殻類

アメリカザリガニ、テナガエビの2種が採捕された。

#### 貝類

シジミ類、カワニナ、ヒメタニシが確認された。シジミ類は、外来種と見られ多数確認されたが、前年度に比較すると少なかった。

#### 水生昆虫

トンボ類ヤゴ、タイコウチ、ミズカマキリ、ヒメゲンゴロウの4種が採捕された。

### (2) 遠州池

#### 魚類

農業排水路上流の遠州池で確認された種は、別紙の12種であった。優占種はモツゴとタイリクバラタナゴであった。他にタモロコ、ツチフキ、ブルーギル、フナ類2種、ハゼ類2種が確認された。

ツチフキが5尾確認され、本種が増えているようであった。本種は本来、関西以南に自然分布する種であるが、最近霞ヶ浦湖岸で見られるようになっており、霞ヶ浦からの湖水の送水で遠州池に移送さらたものと見られる。

ワカサギは、2015年頃から遠州池で確認されるようになってきているが、本種も霞ヶ浦からの仔稚魚の移送によるものと見られる。

#### 甲殻類および水生昆虫

甲殻類はアメリカザリガニ、テナガエビ、スイジエビの3種、貝類はヒメタニシ、トンボ類ヤゴおよびミズカマキリの3種、水生昆虫はトンボヤゴ、ミズカマキリ、2種を確認した。

### 7 農業排水路の状態

農業排水路の河床には土砂が、少しずつ堆積し、その上に付着性の緑藻類が繁茂してきている。小型の魚類が、ここに潜り込むようになっている。ドジョウ、タイリクバラタナゴ、メダカがそうである。一方、かつて見られたオイカワ等は確認できなかった。

タイリクバラタナゴおよびモツゴは、いずれも小型の個体しか見られなかったことから、上流遠州池からの流下個体と考えられた。

これに対し、メダカは遠州池で確認されず、下流側の森林につながる小水路で生息が確認されたので、ここからの流下と考えられた。

貝類については、目視で生息量が減少しているようであるが、その原因も河床上の環境

の推移の影響と考えられた。

今回の2回の調査では、確認できなかったが、下流側では、コイおよびフナ類が確認されているが、これらは比較的大型で下流からの遡上と考えられる。

平成 29 年度調査結果

NO.	魚 種	2017.8.7		20018.1.28	
		農業水路	遠州池	農業水路	遠州池
1	ワカサギ	0	2	0	0
2	タモロコ	0	5	0	1
3	モツゴ	5	64	3	10
4	ギンブナ	0	7	0	14
5	ゲンゴロウブナ	0	1	0	0
6	コイ	0	2	0	0
7	タイリクバラタナゴ	22	53	27	12
8	ツチフキ	0	5	0	1
9	ドジョウ	+++	2	4	0
10	メダカ	0	0	5	0
11	ブルーギル	0	4	0	2
12	ヌマチチブ	0	2	0	1
13	ウキゴリ	0	1	0	0
14	アメリカザリガニ	+++	6	4	0
15	スジエビ	0	2	0	0
16	テナガエビ	0	18	1	2
17	ヒメタニシ	+++	5	+++	0
18	カワニナ	+++	0	4	0
19	シジミ類	+++	0	5	0
20	トンボ類ヤゴ	2	3	0	1
21	タイコウチ	1	0	0	0
22	ミズカマキリ	1	1	0	0
23	ヒメゲンゴロウ	0	0	1	0
		+++	多数採集		



夏季参加者



魚類採集



種類の確認



冬季参加者



採集風景



魚の展示広報

いばらき未来基金 第2回テーマ助成事業 報告書

いばらき未来基金第2回テーマ助成事業 決算書

団体名: 若草ふるさとアカデミー

事業名: 未来をひらくふるさと塾

区分	科目	内容	単価	×	人数・回数	=	金額	計	うち助成金 充当額	うち自己資 金充当額	予算(うち助 成金充当 額)	予算対比	
収益	受取助成金等	テーマ助成	¥100,000	×	1 式	=	¥100,000	¥100,000					
	自主 財源	自己負担	¥74,038	×	1 式	=	¥74,038	¥274,038					
		受取助成金等	その他の助成 金	¥100,000	×	1 式	=		¥100,000				
		受取寄附金		¥100,000	×	1 式	=		¥100,000				
	経常収益計							¥374,038	¥374,038				
費用	報償費	講師旅費実費	¥100,000	×	2 名	=	¥200,000	¥200,000	¥100,000	¥100,000	¥100,000	¥0	
	消耗品費	コピー用紙等 事務用品	¥32,268	×	1 式	=	¥32,268	¥32,268	¥0	¥32,268	¥0	¥0	
	印刷費	コピー代	¥6,650	×	1 式	=	¥6,650	¥6,650	¥0	¥6,650	¥0	¥0	
	図書費	教材等の購入	¥48,620	×	1 式	=	¥48,620	¥48,620	¥0	¥48,620	¥0	¥0	
	交通費	関係者・協賛 者の交通費実 費	¥50,000	×	1 式	=	¥50,000	¥50,000	¥0	¥50,000	¥0	¥0	
	保険料	レクリエーション 保険(野外活 動時分)	¥36,500	×	1 式	=	¥36,500	¥36,500	¥0	¥36,500	¥0	¥0	
	経常費用計							¥374,038	¥374,038	¥100,000	¥274,038	¥100,000	¥0
当期経常 増減額							¥0	¥0					

## いばらき未来基金第2回テーマ助成事業 活動報告書

活動名	市民まちづくりトレーニング@水戸
テーマ (いずれかを選択)	3. 地域資源の再活用 ～知恵と交流で未来をつくる～
団体名	みと市民プロジェクト
この活動で取り組んだ地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、地方の都市や農村では、少子高齢化、人口減少、コミュニティの崩壊、そして自治体の財政難など様々な課題を抱えている。</li> <li>・例えば、まちなかでは、経済活動が衰退し、歩行者通行量が減少し、空き店舗や空き家が増加するなど、元気が失われている。</li> <li>・しかし、このような状況を逆手に取り、空き店舗などの遊休不動産を有効活用することで、人々の自己実現の場を作ったり、社会課題の解決を図ったり、経済活動を活性化したりすることが可能であると考える。</li> <li>・そこで、目的意識を持った人たちがつながって、ともに解決策を考え実践する、機会と場を提供することが求められている。</li> </ul>
この活動の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該事業は、地域社会において、やりたいこと、解決したい課題などをお持ちの方が、活動の具体的なテーマの設定法、仲間や支援者との出会い方、機会と場のづくり方、つなげ方などを学び実践することを目的に実施する。</li> <li>・企画終了後、当団体が中心となり、各プロジェクトの事後フォローを随時実施し、地域における実事業化を支援する。</li> <li>・築かれたネットワークを活用して、希望者を中心に実行委員会を結成し、「フューチャーセンターセッション」の開催を目指す。</li> </ul>
実施内容	<p>ワークショップやまち歩きなどを通して、参加者各人の「やりたいこと」と「地域の課題」をつないだ活動プランを策定し、それぞれの地域において市民プロジェクトを実践した。講師による3回の指導とグループに分かれての検討会を通し、プロジェクトのブラッシュアップを図った。</p> <p>【期間】2017年6月～2018年3月 【講師】森良 【サポーター】8人 【参加者】12人（男性9人、女性3人、年齢層は20代～60代）</p> <p>（4～5月）活動の周知、参加者の募集 5月17日 無料体験授業（講師トーク、ミニワークショップ、質疑応答） 6月18日 第1回トレーニング（自分を知る、地域を知る。市民社会のづくり方を知る。目標と活動計画を持つ。） （6～8月）サポートグループミーティングの開催（月1回程度） 9月10日 第2回トレーニング（活動の中間報告と活動計画練り直し） （9～11月）サポートグループミーティングの開催（月1回程度） 11月19日 第3回トレーニング（各自のまとめと終了後の計画づくり） （12～3月）各プロジェクトの事後フォローの実施（随時） 3月18日 活動報告会（進捗状況報告と意見交換、今後の進め方）</p>
申請書に記載した「評価指標」に対する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者各人が、地域活動のリーダーとして、課題発見力、事業プラン立案力、ネットワーク形成力、事業実践力を身につけ、各現場で具体的な事業を実践し</li> </ul>

<p>る、実施「結果」</p>	<p>ている。【実事業化プラン数：9事業】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 水戸市三の丸地区の空きをビル活用した活性化事業</li> <li>② 公民館の空きスペースを使った一人暮らし高齢者の花壇づくり活動</li> <li>③ 空き店舗となった元飲食店などを活用した多文化体験事業の実践</li> <li>④ 青少年施設の遊休スペースを活用するためのワークショップの開催</li> <li>⑤ 高齢者の認知症予防のための「脳若トレーニング」の開催</li> <li>⑥ 子どもたち対象とした大道科学実験教室「ころりん」の開催</li> <li>⑦ 親子を対象とした体験教室の開催（餃子づくりとカンフーのコラボ）</li> <li>⑧ 女性の生きがい発見を目的とする連続セミナーの開催</li> <li>⑨ 水戸市の歓楽街に立地する児童公園を活用した地域活性イベントの開催</li> </ol>
<p>申請書に記載した「目的」に対して、生まれた「中長期成果」</p>	<p>・まちづくりトレーニングとフォローアップを通じて、参加者各人がそれぞれの現場で、地域課題の解決を目指した実践活動を実践することで、遊休不動産を活用した地域活性、高齢者の自立、若者の拠点づくり、親子と地域とのふれあい、女性の生きがい発見などの効果がもたらされてきている。</p>
<p>申請書に記載したように、市民の新たな「居場所」や「出番」をつくることにつながりましたか？</p>	<p>・新たに活動や事業を始めるきっかけづくり目指している市民や民間人に、課題探求力、事業プランの企画立案力などを身につけてもらい、地域における活動の幅と質を向上させることにつながった。</p> <p>・特に、ワークショップとサポートグループの場における相互のエンパワーメントが、思いを形にする力となった。</p> <p>・そして、これまで思いがあっても行動に移せなかった人たちが、活動の機会と場を発見し、仲間や支援者となつがり、活動の第一歩を踏み出した。</p>
<p>活動実施後の展望や新たに増えてきた地域課題</p>	<p>・各人の「やりたいこと」「できること」を掘り下げて、社会課題と向き合うことで、思いを持った人なら誰しもが市民プロジェクトを実践することが可能であることが実証できた。</p> <p>・まちの活性化のための最大の資源は「人」であり、思いを持った人をつないで、地域の有形無形の資源を有効に活用することで、まちを元気にしていくことが可能である。</p>
<p>市民や団体からのご寄付を原資として助成しました。寄付者へ一言お書きください</p>	<p>・このトレーニングを実施したことで、思いを持った人なら誰しもが、まちのプレイヤー（市民プロジェクトの実践者）になれることがわかりました。</p> <p>・やりたいこと、解決したい課題などをお持ちの方が、具体的なテーマの設定法、仲間や支援者との出会い方、機会と場のつくり方・つなげ方などを学び実践するきっかけとなり、実に9つもの市民プロジェクトを誕生させることができました。</p> <p>・ご支援、本当にありがとうございました。私たちはこれからも、地域で何か始めたいと考えている皆さんと一緒に、まちを元気にしてまいります。</p>
<p>自己評価 (いずれかに ○ を記入)</p>	<p>A. 目標を超える成果を得ることができた</p> <p><input checked="" type="radio"/> B. ほぼ目標どおりの結果となった</p> <p>C. 残念ながら目標を達成できなかった</p> <p>D. その他 ( )</p>

いばらき未来基金 第2回テーマ助成事業 報告書



いばらき未来基金第2回テーマ助成事業 決算書

団体名:みと市民プロジェクト

事業名:市民まちづくりトレーニング

区分	科目	内容	単価	×	人数・回数	=	金額	計	うち助成金 充当額	うち自己資金 充当額	予算(うち助 成金充当 額)	予算対比	
収益	受取助成金等	テーマ助成	¥150,000	×	1式	=	¥150,000	¥150,000					
	自主 財源	事業収益	参加料(3回分)	¥6,000	×	11人	=	¥66,000	¥79,269				
			参加料(2回分)	¥4,000	×	1人	=	¥4,000					
		受取寄付金	懇親会残金等	¥9,269	×	1式	=	¥9,269					
	経常収益計						¥229,269	¥229,269					
費用	諸謝金	講師(旅費込み)	¥60,000	×	3回	=	¥180,000	¥180,000	¥150,000	¥30,000	¥150,000	¥0	
	旅費交通費	講師	¥10,000	×	2回	=	¥20,000	¥20,000		¥20,000		¥0	
	賃借料		会場(5月17日)	¥4,440	×	1式	=	¥4,440	¥4,440		¥4,440		¥0
			会場(6月17日)	¥5,040	×	1式	=	¥5,040	¥5,040		¥5,040		¥0
			会場(5月19日)	¥5,000	×	1式	=	¥5,000	¥5,000		¥5,000		¥0
	印刷製本費	チラシ	¥6,480	×	1式	=	¥6,480	¥6,480		¥6,480		¥0	
	消耗品費	文具・用紙等	¥8,309	×	1式	=	¥8,309	¥8,309		¥8,309		¥0	
	経常費用計						¥229,269	¥229,269	¥150,000	¥79,269	¥150,000	¥0	
当期経常 増減額							¥0	¥0					